

卒業研究感想文

卒業研究に当たり、私が心掛けていたことが3点ある。1点目は研究者としての覚悟を自分に持たせること、2点目は社会人としての自覚を持って研究に望むこと、3点目はこの一年で学んだことを今後の研究に当たる上の基礎と出来る様に習得することである。

1点目に関しては、生命科学科に入学する時から心掛けていたことではあるが、これを機に本格的に研究に入るため、今一度決意を固めたいと思った。研究者に限ったことではないと思うが、今後大学院に進み研究者としての道を進みたいと思うのであれば、今回の卒業研究はプロを目指すための第一歩となるため、自分自身の中で覚悟を決めて望みたいと思った。

2点目に関しては、自分は大学院に進学するので身分の上では学生が継続することになるが、同級生の中には社会人として働く者もいる。また、学部生とはいえ研究室に配属しその講座で学ぶということは、その講座の一員であるとも言える。これらのことから、学生としてではなく一人の社会人としての自覚が必要なのではないかと考えた。

3点目に関しては、この最初の1年に習得することを大事にし、基礎として、今後の研究を行っていく上で応用の習得がスムーズにできるのではないかと考えた。

これらの意識を持って1年間卒業研究を行った。しかし、全ての内容に関して達成できたかどうかは分からないが、少なくとも得られたことは多かった。その中で私が特に大切にしたいと思ったことは、「研究は楽しい」ということである。私は、研究者を目指して生命科学科に入学するのを決めたため、この卒業研究は直接に、夢を実現することの一つに繋がると考えている。そして、最終的にこの実現には平端な道のりでなく様々な苦難が伴うであろうと考えている。その時にはこの気持ちを思い出し、乗り越えていきたい。

そして、これらのことは研究者に限らず全ての職業に関して言えるのではないかと考えている。自分がその道を進むと決めたのであれば、そのことに対し責任と覚悟を持って臨むことが大事となる。そうすることで、その中に楽しみを見出して、次の段階に進むことができるのではないだろうか。生命科学科の学生としての4年間、とりわけ卒業研究に従事した1年間は、私にこのことを教えてくれた期間ではないかと考えている。

今後は大学院に進むことになるが、この時もこの文章に書いた気持ちを大事にまた次の段階へと自分を進めていくように心掛けていきたい。

最後になりますが、4年間様々なお世話をしていただいた全ての方々に感謝の意を記して私の感想文を終わります。ありがとうございました。[Y.T.]

卒業研究に取り組んで

卒業研究に取り組んで実感したことは、克服しなければならないことが山積みだということです。また、このことにも増して、私は実験やそれに伴う技術が好きだということを改めて感じることができました。

研究には人柄が出ると思いますし、人生そのものという感じを持っていますが、今の私は全力で学ぶということが未だ実行できておらず、それが何に起因しているのかさえ自分で分かっていない状況です。今までこのようなことを意識したことはなかったですし、それでも特に困ることなく生活してきましたが、少なくとも、「研究者の道」を選ぶ以上は、意地でも乗り越えていかなければならないようです。卒業研究を行うに当たり、このようなことに悩むことになったのも、一つの成果であり、私の中での大きな変化ではないだろうかと思います。ただ、これではまだスタートラインにすら立てていないのだろうとも思います。研究というものを全力で楽しむためにも、たくさんの課題を地道にクリアしていけたらと思いました。

最後に、卒業研究に際してご指導頂いた講座の皆様はこの場を借りて深く感謝致します。

[A.K.]

卒業研究に取り組んで

この1年間を振り返ると、本当にあつという間に過ぎていったなと感じます。私の場合、夏頃まではとても調子が良くて、「研究なんて簡単じゃん」などと思っていましたが、今思えばただのビギナーズ・ラックだったので、その後は最後の最後までがき苦しんだ、そんな1年間でした。研究室に夜遅くまでこもる生活は慣れるまでは大変でしたが、1歩1歩、時には止まったり戻ったりしながらも研究が進んでいくことに充実感を感じる毎日でした。また、3年生までの授業や実習で身につけた知識、経験がここに生きてくるのだなど、事あるごとに実感しました。私にとって幸運だったことは、私が選んだ研究室が、私の考え方、また私自身を本当によく理解してくださる環境であったことです。研究者としてスタートを切ったとはいえ、まだ学生気分が抜け切れず、端から見ればだらしない面が多々あった私に、伸び伸びと自分のペースで研究・実験に取り組ませていただき、本当に感謝しています。そんな私も、4月からは大学院の医科学専攻修士課程に進学します。大学4年間は遊びに勉強に大変充実していました。何も後悔はありません。しかし、この後は競争だと思っています。大学の成績も、出身学部も年齢も何も関係ありません。修士課程では自分の夢に向かって、全力で研究に打ち込んでいきたいです。

[Y.K.]

卒業研究を振り返る

初めて一年間かけて一つのテーマについて研究を行い、気づいたことはとても多かったと思います。一つ一つの実験手法はもちろんですが、実験データが出た時の解釈の仕方、いかにわかりやすく実験内容を発表するか等、自らその過程を経験することで学ぶことがたくさんありました。どのような結果が出るか期待しながら実験することはとても楽しかったです。このような研究生生活を送ることができたのは、親身に指導してくださった先生方、研究室の先輩やテクニシャンの方々、お互いに励ましあいながら取り組んできた生命科学科のメンバーのおかげだと思います。卒業研究を行なったこの一年間、また生命科学科での四年間を通して言えることですが、周りの方々に恵まれて過ごすことができたと思います。この場を借りて、深く感謝申し上げます。[T.T.]